いっしょにつくろう 東九条マダンニュース

2013年 第1号 通算47号

〒601-8013
京都市南区東九条南河原町3
TEL (075)661-3264
FAX (075)661-3294
http://www.h-madang.com
メール hkm@h-madang.com

2013年8月31日発行

東九条マダン(マダン)実行委員会
[実行委員長 陳太一]

あなたもマダンづくりに参加しませんか!?

音楽練習(プンムルれんしゅう)

チャンゴ、プク、ソゴなどの打楽器を練習して、マダン当日の大音量に一緒に出演しませんか? 初心者の方大歓迎! みんなで楽器を打ち鳴らす喜びと感動の時が、あなたを待っています!

おとな 9月2日~ 毎週月曜 18:30~20:30 ばしょ 元・崇仁小体育館

こども 9月3日~ 毎週火曜 17:00~18:00 ばしょ 希望の家

*祝日は、練習時間・場所が変更となる場合がありますので、あらかじめご確認下さい。

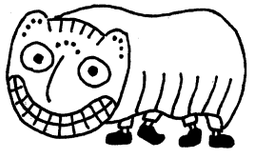
今後の実行委員会

9/28(土) 10/12(土) 10/27(日)
19じ~ 文庫・マダンセンターにて

実行委は、プログラム内容や情宣計画などマダンづくりのすべてについて意見を出し合い、決定する場です。どなたに対しても開かれた場なので、マダンづくりに興味のある方、関わりたい方、気軽にご参加下さい。

美術班(びじゅつはん)

みんなで協力して"手づくり"することを大切にしてきた東九条マダンの中でも、美術班は最高に手づくり感あふれる部門。マダン会場をいろどる絵や農旗、탈(仮面)、韓紙作品などをつくっています。どなたでも気軽に参加できます。ぜひ作業場へ顔を出してみて下さい!



じかん 毎週日曜 14:00~
ばしょ マダン倉庫(元・崇仁小学校内) または 文庫・マダンセンター

東九条マダンの生みの親 梁民基先生逝く

去る7月29日、梁民基先生が亡くなられました。78歳。梁先生が提唱し実践された「民衆文化運動」は東九条マダンに受け継がれています。梁民基先生は東九条マダンの"生みの親"ともいえる大きな存在でした。

1980年代、韓国国内の民主化運動と連帯し、アフリカやラテンアメリカの民主化運動にも共感を寄せる中で、梁先生は文化のもつ意義について考えぬきました。そして、権力者が民衆に押しつける文化ではなく、民衆が自らの知恵と情熱によって創りだす文化こそ真の文化であり、こうした民衆文化を創造するエネルギーが社会をあり得べき姿に変えていくと確信し、「民衆文化運動」を提唱、これをさまざまなかたちで実践していきます。特筆すべきは、朝鮮半島伝統の表現様式である마당劇を、民衆の希望と反骨精神をうたいあげるものとして、日本でまっ先に紹介したことです。梁先生が大阪で始めた마당劇の上演運動は「生野民族文化祭」へと受け継がれました。一方で梁先生の実践する民衆文化運動は、在日朝鮮人だけでなくすべての民衆が文化創造の担い手となり得るもの。多くの日本人もそこに魅きつけられました。私もその一人です。

90年代に入ると京都で、梁先生の教えを受けた民衆文化運動の担い手、한마당のメンバーらが中心となり、東九条マダン開催へと動き始めます。梁先生も、これからは東九条を民衆文化運動の実践の舞台にしたいと強く思ったにちがいありません。マダンの開催が決まると拠点を大阪から東九条へ移し、以降体調を崩すまで、東九条マダンで、マダン劇づくりや美術班のものづくりに関わり、あとを受け継ぐ私たちに、自らの文化を創りだす精神の気高さを伝えました。

昨年、私たち有志は『みずからの文化を創りだす 梁民基記録集』を刊行しました。先生の業績を後世に伝えていくことは、教えを受けた私たちの責務だとの思いがあり、また、闘病中だった先生にとって、記録集の刊行が少しでも励みになれば、とも思ったのでしたが…。

記録集は、遺稿集になってしまいました。

今年の東九条マダンでは梁先生を追悼するプログラムを実施したいと考えています。ご冥福をお祈りします。

【東九条マダン事務局長・渡辺 毅】

マダンづくりスタート!

7月7日、文庫・マダンセンターにて第21回東九条マダン実行委の「始動式」を行い、今年のマダンづくりが本格的にスタートしました。実行委員長は引き続き陳太一さんが務めます。集まった40名ほどで今年のマダンへの抱負を語り合い、また、昨年20回の節目を迎えたマダンのさらなる発展を誓い合いました。

雨天の場合は4日(月・振替休日)に順延

第21回東九条マダンは11月3日(日) 元・山王小学校で開催!

今年の마당劇は民話劇!!

マダンな人 마당인사람

下林慶史さん

本人・画

障害者の自立生活運動を展開するJCIL（日本自立生活センター）のスタッフ、下林慶史さんは、自らも脳性マヒの障害をもつ26歳。障害者の当事者運動のホープは、東九条마당にとっても、若きホープの一人です。

Q：JCILでは2010年7月から専従をしているそうですが、どんなきっかけで関わるようになったんですか？

A：もともと、通院や外出のさいにJCILのヘルパーを利用していました。大学を卒業し就職先に迷っていたとき、「当事者スタッフを探しているので、よかったら話を聞いてみない？」と声をかけてもらったんです。大学では社会福祉を学び、特に地域福祉に興味があったので、障害のある人も当たり前に暮らせる地域社会づくりへ向けて、1980年代の半ばから活動しているJCILに共感し、わりとすぐスタッフとして活動に入りました。

Q：JCILの活動について教えていただけますか？

A：自立生活をめざす障害当事者への相談や支援、ヘルパー派遣、障害をもつ人の旅行の企画や実施、啓発活動などです。行政に意見書を出したり、いまは障害者差別禁止条例制定へ向けた検討部会にも参加しています。知的障害者の団体の事務局を置いたり、精神障害者の居場所づくりを手がけたりもしています。自立へ向けた相談・支援業務では、ピアサポートを大事にしています。

Q：ピアサポートとはどんなものですか？

A：障害をもつ仲間が何らかの課題に直面したさい、その課題を障害当事者同士で共有し、サポートし合うかたちです。ピアサポートでは、だれか一人が中心になって意見をリードするというよりも、みんなで報告し合い、意見を出し合って考えることが多いですね。

Q：JCILのスタッフになって마당にも関わるようになった下林さんですが、마당の印象はいかがですか？

A：当日はすごくたくさんの人がいて、みんなで歌って踊るフィナーレでは、その高揚感の中で僕自身も盛り上がって、こみ上げてくるものがありました。すげえなぁって思いました。JCILにも在日のメンバーがいるんですが、마당に参加したことで、その人のことや朝鮮文化についてもっと知りたいと思うようにもなりました。

Q：東日本大震災直後に開いたオフシーズンの実行委員会では、被災地の現地報告もしていただきましたね。

A：そうでした。震災直後に現地を回って目のあたりにした、被災地の障害者のきびしい現実を、마당のみなさんにも知っていただく機会にはなったと思います。

Q：ところで、JCILのみなさんが中心になって運営してきたコーナーに、車いす体験コーナーがあります。この、마당の人気コーナーへの思いを聞かせて下さい。

A：車いす体験は大事なコーナーだと、僕は思っています。車いす生活や障害者について知ってもらうきっかけになりますからね。마당では、多くの子どもたちが毎年この体験に参加しますが、こうして車いすに慣れ親しんだ子どもたちが成長することで、福祉のまちや、共に生きる社会を実現できるんじゃないかという期待もあります。ただ、毎回似たようなかたちなので、マンネリ化を防ぐ工夫はしていかなければならないと思っています。工夫の方法については、現在模索中です。

Q：ところで今年は美術班にも参加されているとか。

A：はい。じつは僕、絵を描くのが好きなので、以前から誘ってもらってたんですが、この前、作業に参加して旨刊（農旗）を描き始めました。今年はJCILのメンバーとして車いす体験コーナーを担当するだけでなく、ほかにも何かしてみたいと思っていたんです。

Q：마당にはいろんな活動分野があります。ぜひ興味のおもむくままにあちこち顔を出して、下林さんの持ち味を存分に発揮して下さい。ありがとうございました。

“体験”がいつか実を結ぶ“共に生きる社会”の未来に期待！

京都市聴覚障害者協会創立50周年記念式典に 풍물隊が出演

7月21日、京都市聴覚障害者協会創立50周年記念式典に出演させていただきました。音の聴こえない方たちが、体で太鼓の響きを感じ、楽しんで下さいました。演奏後、手話で「感動しました！」とメッセージをいただき、풍물の“伝わる力”の大きさを、あらためて実感しました。

ポスター・チラシはレトロな映画看板風

今年のポスター・チラシは、美術班で活躍中の小林忠市さんが原画を担当。若いころ映画看板を描く仕事をしていた小林さんには、第18回のとき마당劇「ホランイ・ウホ」の看板を描いてもらい、大好評でした。そこで今回も、마당を映画に見立てて、レトロな看板風のタッチで原画を描いてもらいました。

カンパをおねがいします!!

東九条마당は主にみなさまからのカンパで運営しています

郵便振替口座
01070-9-53651
東九条マダン実行委員会

東九条のみなさまへニュース・チラシの各戸配布にご理解を

마당とは 韓国・朝鮮の言葉でひろばのこと